

2018年

8月10日
第317号

ゆうあい通信

発行所 石井記念友愛園

宮崎県児湯郡木城町椎木 644 番地 1

〒884-0102 TEL 0983-32-2025

酷暑の夏の希望

園長 児嶋 草次郎

暑中御見舞い申し上げます。全国各地で35度以上の日々が続いていますが、皆様お元気でしょうか。水分補給を忘れず休養もしっかり取って、お互い、この夏を乗り切りましょう。御自愛下さい。

友愛園の園庭では今、カンナ、メランポジウム、ケイトウ、サルビア等、この暑さにも負けず逞（たくま）しく成長し、次々に花を咲かせてくれています。雨が多いので雑草もすごい勢いで繁茂しますが、今のところ雑草との戦いに負けないうように先手を打った除草が私の早朝の日課になっています。これから秋にかけて花々は私たちに希望を与えてくれます。

戦いと言えば、県内の施設対抗の野球大会は、今年も優勝することができました。迷走12号台風のため順延となり、試合も短縮されたりしましたが、その実力を発揮し、長崎での九州大会優勝に向けて新たな闘志を養っています。

残念だったのは、女子バレーボール大会の方でした。今年は例年より気合いを入れ、必勝を誓い合って試合にのぞんだのですが、2試合ともストレート負け。その実力の差とは何なのか、私なりに分析して得た結論は、2、3人の学校バレー部所属の選手がいるか否か。残念ながら、今のところ友愛園の女子高校生の中には学校でのバレー部所属はいません。来年に向けて希望を抱くことにします。

台風が九州から離れて溜息をついている時、清涼感と癒しを持参してくれた来客もありました。8月1日、今から10年ほど前に卒園した三姉妹が帰って来てくれたのです。三人とも看護師・保健師として、一番上が東京で、下二人が大阪で働いています。一番下のH子の彼氏の車に3人同乗して帰省したとのことでした。

園長室で、主任の花田さんや元調理の江原さんも入れかわりで加わって、昔話に花を咲かせました。夏前半の疲れを吹き飛ばしてくれるような三姉妹の笑顔と楽しい笑い声に、心地良さを感じながら一時をすごしました。

一人ひとり、りっぱに看護師という社会人として自立し、品格と気概さえ感じ

させる大人に成長しており、まばゆいばかりでした。まさに、自分たちの逆境を乗り越え、運命を変えた3人が、私の目の前で誇りを持ってすわって談笑しているのです。頼もしくもあり、これ以上にうれしく感じることはありません。

話しながら昔の記憶を少しずつたぐりよせていくのですが、彼女たちのお父さんは、建設会社を経営する人でした。突然亡くなり、家族は路頭に迷うことになります。その時はすでに、離婚していて母親はいなかったと思います。兄弟5人が取り残されてしまったのです。一番上の姉は高校をやめて働き始め、下の3人（一番下のH子はまだ幼児でした）は、児童相談所を通してこの友愛園に入所しました。

彼女たちにとっては、友愛園の生活は、運命を変えるための修業でした。白血病でなくなったお父さんの臨終に立ち合った彼女たち3人が志した職業は、当然のごとく看護師でした。3人とも友愛園から宮崎市内の私立高の看護科に自転車と電車と乗りついで3年間通学。そして、やはり3人とも、大阪市内の看護系の4年生大学に進学。当時は、まだ給付型の奨学金はなく、大学の系列の病院で准看護師として働きながらの進学でした。4年間の学費を病院が出してくれ、卒業後5年間その病院でお礼奉公すれば返済免除になるというものでした。3人ともよくその厳しい環境に耐えました。一番上のM子が負けず嫌いのしっかり者で、二番目がおっとり型、三番目は甘ちゃん。M子を追いかけるような形になったのがよかったのでしょうか。高校中退した一番上のお姉さんが早く結婚して、母親代りとして、お盆や正月などずっと受け入れてくださり、心の寄り所となってくださったのもよかったのでしょうか。

つまり、このような不幸な家族ケースの時よくあることかもしれませんが、下の三人の自立のために一番上のお姉さんが踏み台となってくださったのです。この日お姉さんのことも話題となり、もう40歳前後とか。私は、『子育てが終わったら、保育の専門学校に行って資格を取り、友愛社の保育園等で働いてください』と伝えておいて」と三人にお願いしておきました。おそらくお姉さんも、お父さんが生きておられたら、ちゃんとした学歴を身につけて社会で活躍する人生を送られていたに違いありません。定期的に面会に訪れるあのお姉さんは、しっかりした人でした。きっと彼女にも夢があったのでしょうか。40歳からの挑戦でも決して遅くはありません。はたしてその後伝えてくれたかどうか。

あの時、大学入学に際しては、苦い思い出もあります。最初のM子の時、20万円の入学金が壁となったのです。仕方ないので10万円は本人の貯金から、あとの10万円は、子供たちの労作作業で得たお金の中から出しました。ところが次の年の監査で、園のお金を個人に出すことはまかりならんと、指導を受けたの

です。今は、給付型の奨学金もでき、ありがたい世の中になったものだと思います。

こうして、彼女たちの活躍を見ていると、児童養護施設の子供たちも言わば“金の卵”であり、社会の人材として大切に育てていかねばならないのだと、改めて強く思います。負の連鎖を断つというような次元に止まってはいけないのです。社会に貢献する人材として養成するのです。彼女たちのりっぱな姿を見ながら、私は、次のように話し握手をして別れました。「天国のお父さんがしっかり見守ってくださったのだろうね。感謝しなければならないね」。

三姉妹の来訪が、清涼飲料水だとすれば、8月6日の団体の来訪は、暑い園庭で食べるバーベキューみたいなものだったかもしれません。弱った体に活力と希望を与えてくれるものでした。

宮崎大宮高校1年文化情報科15名を中心とした「イノベーションサマープログラム2018」の団体47名が「石井十次資料館」を訪れたのです。高校生は他に日向高校1年フロンティア科5名、都城泉が丘高校1年理数科5名です。さらに、その高校生たちを指導する立場の東京大学大学院生を初め大学生が7名、外国人大学生が7名加わっています。

大宮高校の木場（こば）先生より事前にいただいた資料を見ると「『地域の魅力的なストーリーを生かしたイノベーション』を起こすことをめざす。」と書いてありました。一般的には、イノベーション（革新）を起こして新しい商品やサービスを開発するのが目的ですが、このプログラムは、その訓練をしながら、優秀な高校生たちの才能を掘り起こし、志を高く持たせるというのがねらいなのでしょう。

4泊5日、高鍋町の農業大学校内の農業研修センターに泊まり込での研修で、意見交換会も英語でやるとかでかなり高度レベルのものようです。ちなみにフィールドワーク先は、石井記念友愛社以外に「百年の孤独」の黒木本店とお茶生産の新緑園等です。

これは石井記念友愛社に与えられた一つのチャンスでもあり、将来地域や国のリーダーになるかもしれない若者たちに、しっかり石井十次をアピールするために気合を入れて望みました。

朝8時半過ぎには到着、最初に石井十次資料館を見ていただき、9時すぎから研修館でパワーポイントを使って石井記念友愛社としての「物語」を提供。そして、茶臼原自然芸術館で、実際に機織りの現場を見ていただきました。質問も色々出て、まだ幼さの残る高校1年生たちではありましたが、頼もしくもあり、別れの時は、「遠き慮（おもんばかり）無ければ、必ず近き憂い有り」という論語の

言葉をプレゼントしました。

以下は、研修館での説明の一部です。

私たち石井記念友愛社は社会福祉法人という国等から補助金をもらって運営し、制度の枠にはめられた団体です。以前は行政の出先機関として位置づけられていて、本業の、それぞれの福祉の仕事以外に余計な仕事はするなど指導を受けていましたが、今は 180 度変わって、本業以外にも地域貢献しろと命じられています。発想は自由ですので、その枠組にこだわらない未来を考えるようにしています。

時間が限られていますので、結論的な話から先にさせていただきます。「石井記念友愛社の未来への課題」と題するパワーポイントについて説明させていただきます。

理念は「天は父なり 人は同胞なれば 互いに相信じ 相愛すべきこと」、方針は①自然主義 ②家族主義 ③友愛主義 ④自律主義ですが、これらを支柱とした組織体のイメージ図を描いてみました。最近台風が来ましたので、名づけて創造的台風。台風は破壊しながら進みますが、これは創造しながら進みます。石井記念友愛社は 20 施設ほど経営しています。社会的養護群、保育所群、高齢者施設群、障がい者施設群とそれぞれ雲のように分かれ、全体として渦巻いています。この創造的台風のコンセプトは共生と包括、キーワードは福祉文化。この福祉文化がエネルギーとなっています。

「福祉文化」という言葉は、マスコミも学者もあまり使いません。多分「福祉」そのものが戦後の輸入品だと思っているからだと思います。だから福祉文化は彼らにとっては存在しないのです。私はあえて使います。私は、石井十次の実践の中で培われた一つの福祉文化が存在すると考えています。それらをたどっていくと、高鍋藩の藩校「明倫堂」、さらには鹿児島島の「郷中教育」、吉田松陰の「松下村塾」、大分県にあった広瀬淡窓の「咸宜園」等につながっていきます。福祉という言葉はなかったけど、それらの教育は共助・共生の内在したものでした。現代の言葉に置きかえれば福祉です。そういう伝統・文化が存在するという考え方で、福祉文化という言葉を使うのです。

話をもどします。石井記念友愛社の到達目標は「友愛の地域社会づくり」です。その「づくり」には三つあります。

- ①人づくり（養育・保育・教育）
- ②福祉文化づくり（養育文化・福祉文化伝承）。
- ③モノづくり（自然との共生による生産活動）。

創造的台風から外に向かって走る矢印が出ていますが、それがこれです。ある矢印は人材養成であり、ある矢印は幼児教育、ある矢印は文化伝承であり、ある矢印はモノづくりです。この台風のような組織体が創り出すものです。

そして、最後にイノベーションの手法でもって皆様に考えてみていただき課題として2点あげています。

- ①石井十次の教育・福祉文化をいかにして、宮崎県内の小・中・高生たちに伝えていくのか。いかにして石井十次資料館に来てもらい学んでもらうか。
- ②石井記念友愛社の共生と包括の中から生み出されたモノに、いかに価値を付与し商品として販売していくのか。